

平成 25 年(2013 年)12 月 2 日  
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

- 1 病害虫名 キュウリ退緑黄化病
- 2 病原ウイルス ウリ類退緑黄化ウイルス  
*Cucurbit chlorotic yellows virus* (CCYV)
- 3 作物名 キュウリ
- 4 特殊報の内容 新発生
- 5 発生経過

- (1) 発生時期：平成 25 年 10 月
- (2) 発生地域：宇部市
- (3) 発生状況

平成 25 年 10 月、宇部市の施設キュウリに葉の黄化及び退緑症状が発生した。また、併せて同ハウス内でタバココナジラミの発生が確認された。

山口県農林総合技術センターにおいて RT-PCR 法により検定した結果、CCYV によるキュウリ退緑黄化病であることが確認された。

本病は、平成 20 年 2 月以降、沖縄を除く九州全県と高知県、愛媛県、広島県、埼玉県、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県および神奈川県で発生が確認され、特殊報が発表されているが、本県での発生は初めてである。

## 6 本病の特徴

### (1) 病徴(症状)

葉に退緑色小斑点が生じ、斑点が拡大・融合し不鮮明なモザイク症状となり(図 1)、まだら状および葉脈沿いに緑色を残し葉全体が黄化する(図 2)。症状が進行すると、しばしば下側に葉が巻くことがある。また、成長点付近の葉には、症状は現れず、成熟した葉のみに症状が現れる(図 3)。

本病は、オンシツコナジラミが媒介する *Beat pseudoyellows virus* (BPYV) による黄化病と類似した病徴を示し、病徴で識別することは困難である。

本病の発病株は、発病時期が早いほど減収率が高く、減収の被害は発病 1 か月後から認められる。

### (2) 病原ウイルスの性質と伝染方法

CCYV は、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミ(図 4)のバイオタイプ Q および B が媒介する。

タバココナジラミは、本ウイルスに感染した植物を吸汁することでウイルスを獲得し、媒介能力を数時間～数日間保持する。

なお、CCYV は、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないと報告されている。これまでに感染が確認された作物は、キュウリ、メロン及びスイカである。

## 7 防除対策

### (1) 耕種的防除

- ・育苗期にタバココナジラミの防除を徹底し、本ぼに持ち込まない。
- ・施設栽培では、タバココナジラミの侵入を防ぐため、ハウスの開口部に目合い 0.4mm 以下の防虫ネットを展張する。
- ・黄色粘着シートを設置し、タバココナジラミの早期発見と施設内への侵入防止に努める。
- ・紫外線カットフィルムや光反射資材等を活用し、タバココナジラミの施設内への侵入防止

および侵入後の行動抑制を図る。

- ・施設内及び施設周辺の雑草は、タバココナジラミの発生源となるので、除草を徹底する。
- ・栽培終了時には、キュウリを抜根または地際部を切断して短期間で株を乾燥させ、ハウスを密閉処理してタバココナジラミを死滅させ、野外への分散を防止する。

(2) 薬剤防除

- ・育苗期と定植時にタバココナジラミに登録のある薬剤を処理し、生育初期のウイルス感染防止に努める。

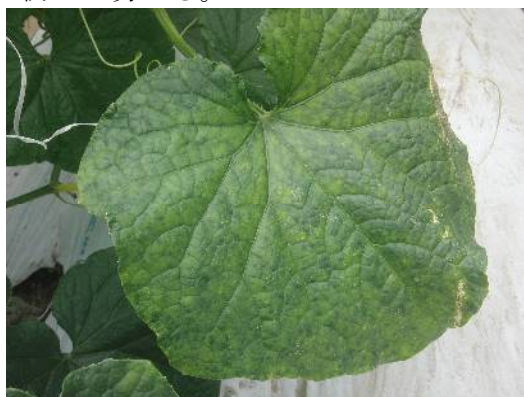


図1 葉の退緑症状 (キュウリ)



図2 葉の黄化症状 (キュウリ)



図3 被害株全体の症状 (キュウリ)



図4 葉裏のタバココナジラミ (左)、拡大写真 (右)

表 キュウリでタバココナジラミバイオタイプQに効果がある主な薬剤 (平成25年11月現在)

系統名	IRACコード	薬剤名
ネオニコチノイド系	4A	ベストガード (粒剤、水溶剤) アルバリン/スタークル (粒剤・顆粒水溶剤)
ピラゾール系	21A	サンマイトフロアブル

注1) 平成25年 山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準参照のこと

注2) 「IRACコード」とは、殺虫剤の作用機構による分類で、同じ番号の薬剤を過度に連用すると抵抗性の発達をまねく恐れがある。